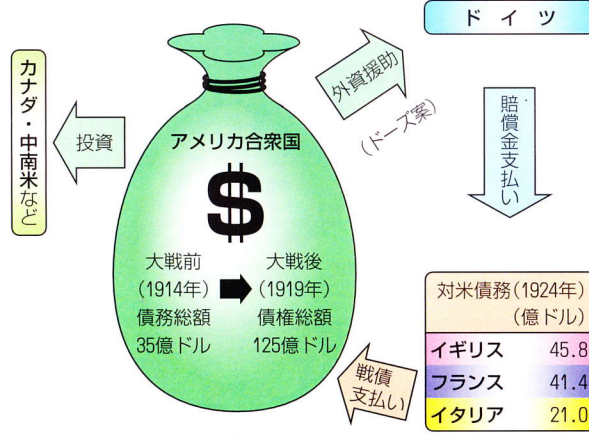


1 黄金の20年代 (P189表, 191)

1913 ウィルソン (民主党)	1919.1 禁酒法制定 (→1933廃止) ○反共的風潮高まる	戦後不況期
	1920.3 上院がヴェルサイユ条約の批准拒否 (←孤立主義) 5 サッコ・ヴァンゼッティ事件 (無政府主義者を無実の罪で処刑) 8 女性参政権付与 ○K・K・Kの復活(ワスプ(WASP)を中心とした反黑人組織) ○アメリカの生産様式(大量生産・大量消費)誕生 ○ラジオ放送開始	
1921 ハーディング (共和党)	1921.11 ワシントン会議開催(～1922.2) 四か国条約(1921.12) 海軍軍縮条約(1922.2) 九か国条約(1922.2) →ワシントン体制 ○農業不況の深刻化	戦後上昇期
	1924.3 農産物価格安定法案否決 4 ドーズ案発表 5 移民法(国別に移民を割当, 排日条項を含む) ○ポプハアの流行 1925 実用的テレビジョンの発明 1927.5 リンドバーグ, 大西洋無着陸横断飛行に成功 6 ジュネーヴ軍縮会議(～.8) ○トーキー映画開始 ○株式ブーム(バブル景気の到来) 1928.1 パン=アメリカ会議(ハバナ会議) 8 バリ不戦条約(ケロッグ・ブリアン協定)	
1929 フーヴァー (共和党)	1929.1 「永遠の繁栄」発言 2 聖ヴァレロインデーの虐殺(シカゴ・ギャングの勢力争い) 6 農業市場法制定 ヤング案発表 10.24 「暗黒の木曜日」(ニューヨーク・ウォール街の株式市場の株価暴落 →世界恐慌)	戦後後退期
	1933	

2 債務国から債権国へ

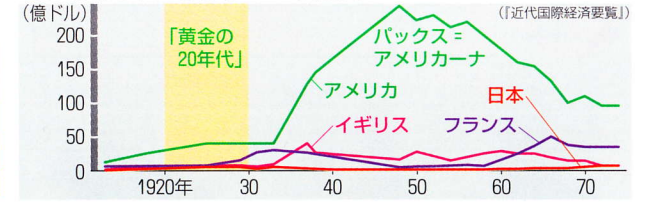


3 合衆国の外交

孤立主義 → 国際連盟不参加

アジア(ワシントン体制) 日本抑制 背景 ●日本の勢力拡大への懸念 ●アメリカの中国進出の期待 ●九か国条約 → 石井・ランシング協定破棄 ●四か国条約 ●海軍軍縮条約	ヨーロッパ(ヴェルサイユ体制) 協調体制 背景 ●英仏のアメリカへの債務返却 ●社会主義の拡大阻止 ●ドーズ案 → ドイツ復興 ●不戦条約 (ケロッグ・ブリアン協定)
---	--

●主要資本主義国の金準備高



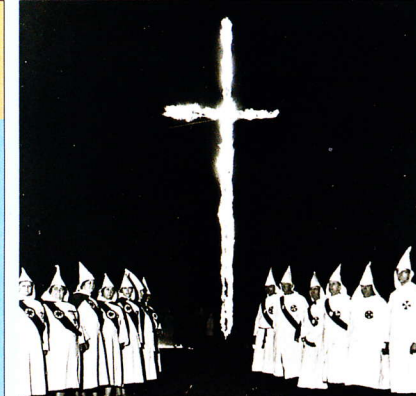
4 合衆国繁栄の「光と影」

↓**ニューヨークの高層ビル群**
エンパイア・ステート・ビルディング



光 アメリカ的生活様式の定着
●電化製品(ラジオ・洗濯機・冷蔵庫)・自動車の普及
●産業の急速な発展

影 社会矛盾の拡大と保守化
●産業界で独占が拡大
●農業不況の拡大
●反共的風潮 (←ロシア革命波及への恐怖)
例: サッコ・ヴァンゼッティ事件
●排外主義・K・K・Kの復活・拡大, 移民法の制定
●保守化・禁酒法制定



●**K・K・K(クー=クラックス=クラン)**
南北戦争後の1865年に結成された反黑人組織。暴行・殺人を行い黒人を恐怖に陥れた。1920年代前半に復活し、反黒人のほか反カトリック・反ユダヤ・反社会主義を唱えて拡大し、一時、会員は約500万人いた。

↑**ハーディング** ↑**クーリッジ** ↑**フーヴァー**

●**共和党の3大統領**

ハーディング 第一次世界大戦後の社会に対し、「平常への復帰」を主張。官僚の汚職が続発する中、急死した。

クーリッジ 好景気に恵まれ、伝統的な自由放任政策を継続。

フーヴァー 「今日、われわれアメリカ人は、どの国の歴史にも見られなかったほど、貧困に対する最終的勝利日に近づいている。……」1928年の大統領選挙の演説である。就任直後に起こった世界恐慌に対し、有効な政策がとれなかった。



●**サッコ・ヴァンゼッティ事件** イタリア系移民で労働運動指導者の2人は強盗殺人事件の犯人として逮捕され、証拠不十分のまま1927年に処刑された。反共的などっちな事件で、1959年に無罪とされた。

●**禁酒法** 第一次世界大戦中の食料節約・反ドイツ感情(ドイツ系移民がビール醸造に従事)・社会の保守化による道徳的観念を背景に、1919年禁酒法が成立。しかし、密造・密輸が横行し、アル=カボネなどのギャングが暴利をむさぼり社会の混乱を招いた。禁酒法は1933年に廃止された。



5 アメリカ経済史(近現代)

米英戦争(1812~14) → アメリカの経済的独立

- イギリス商品の流入断絶
- 商工業の発展(木綿工業など)

南北戦争(1861~65) → 国家的統合と独占の形成

- 北部と南部の経済的結びつきの強化
- 移民の大量流入 → 豊富な労働力
- 北部の工業の急速な発展 → トラストの誕生
(例)スタンダード石油会社…全米の80%の石油を支配
USスチール…全米の60%以上の鉄製品を生産

米西戦争(1898) → 帝国主義へ

- 植民地獲得 → 商品市場・原料供給地・資本投下地の確保
- 反トラスト法の制定

第一次世界大戦(1914~18) → 大量消費社会の到来

- 債務国から債権国へ → 資本主義世界のリーダーへ
- 自由放任経済, 独占の復活

第二次世界大戦(1939~45) → バックス=アメリカナへ

- ブレトン=ウッズ協定(1944)…米ドルを基軸通貨

ベトナム戦争 → バックス=アメリカナの崩壊

- 貿易赤字の拡大…日本・ドイツの急速な経済成長
- ベトナム戦争長期化 → 財政悪化
- ドル=ショック(1971)…金ドル交換停止

7 新しい大衆娯楽

● 1920~30年代のハリウッド映画

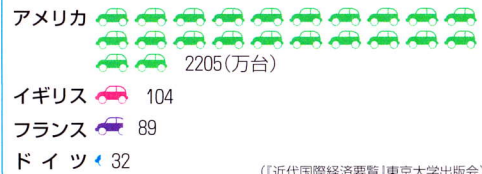
1923 「十誡」(56「十戒」)	1931 「街の灯」
1925 「黄金狂時代」	1933 「キング=コング」
1926 「ベン=ハー」	1939 「駅馬車」
1929 アカデミー賞の始まり	「風とともに去りぬ」
1930 「嘆きの天使」	「嵐が丘」

● チャールストン大流行 サウスカロライナ州チャールストンで生まれたステップが全米に広まった。



● T型フォードのラッシュ(ニューヨーク)

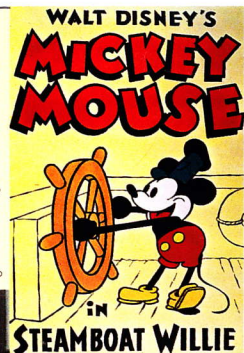
主要資本主義国の自動車登録台数(1926年)



● 解説 大戦による「バックス=ブリタニカ」の崩壊の後をうけて、アメリカは債務国から世界最大の債権国へと変貌をとげた。1920年代の共和党政権による自由放任・独占復活政策の中で、かつてない繁栄期(「黄金の20年代」)を迎え、いわゆる大量消費時代を実現した。

ディズニー映画の誕生

シカゴの貧しい家に生まれたウォルト=ディズニーは、漫画を書くことが大好きな少年。苦労しながらアニメの世界に入り、1928年「ミッキー=マウス」で全米で大ブームを起こした。その後、「白雪姫」・「シンデレラ」などカラー映画も手がけ、夢・ユーモア・優しさに満ちた作品で、世界中から愛されている。



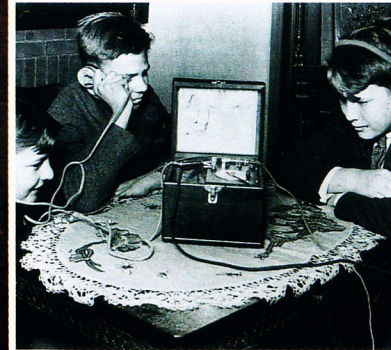
● 「蒸気船ウィリー」
● ミッキーに囲まれたウォルト=ディズニー(1901~66)
1928年、映画「蒸気船ウィリー」でデビューしたミッキー=マウスは観客を魅了した。100本を越す映画に登場し世界中の人気者である。



6 大量消費の時代



● 企業のコマーシャル 大量消費時代に入ったアメリカの企業は、国民の購買意欲をかきたてるため、多様な手段を用いた。右は通信販売会社「シアーズ」の1100ページにわたるカタログ(1927)。中には3万5000種の商品をとりそろえていた。上は1924年のコカ=コーラのカレンダー。



● ラジオ放送

1920年、ペンシルヴァニアで世界初の定時放送を開始。ラジオは1929年に全家庭の40%、1940年には80%と普及し、全国ネット放送により、広いアメリカ社会に情報の統一性をもたらした。



● アメリカン・ドリーム

● ルイ=アームストロング(1900~71) 即興演奏の才能と演奏技術でジャズの発展に貢献。

● ベーブ=ルース(1895~1948) 大リーグ史上空前の強打者。年間ホームラン60本の大記録をもつ。



● リンドバーク(1902~74) テロイト生まれの郵便飛行士が、1927年に2万5000ドルの賞金が賭けられたニューヨーク・パリ間無着陸飛行に成功。